

教育計画

(1) 教育の目標と重点

○ 教育目標

明るく 元気に 生き生きと
児童生徒一人一人の実態に応じた「生きる力」を育み、自立と社会参加を目指す。

○ 教育重点

- (1) 安全・安心と健康維持を第一とし、健康なからだと豊かな心をもつ子どもを育てる。
- (2) 一人一人の発達段階に応じた学習活動の推進に努め、自分の思いをのびのびと表現できる子どもを育てる。
- (3) 自発的な動きと意欲を高める指導を工夫し、仲間と生き生きと活動できる子どもを育てる。

○ 各部の重点

<小学部>

- ・ 生活のリズムを整え、健康な生活を送ることができる児童を育てる。
- ・ 自分の思いを自分なりの表現で、周りの人に伝える児童を育てる。
- ・ 自分の力を十分に発揮して、元気に活動できる児童を育てる。

<中学部>

- ・ 自分の身体の状態を知り、体調に合わせて精一杯活動できる生徒を育てる。
- ・ 自分の思いをはっきり表し、分かりやすく伝える生徒を育てる。
- ・ 自分でできた経験を積み重ね、うまくいかないことでも工夫し、挑戦できる生徒を育てる。

<高等部>

- ・ 豊かな情操を育て、生涯にわたり健康で安全な生活を送ることができる生徒を育てる。
- ・ 主体的に学び、確かな自己表現力とコミュニケーションがとれる生徒を育てる。
- ・ キャリア教育・学習活動を通して自己決定する力を身に付け、自立と社会参加を目指す生徒を育てる。

(2) 経営方針

全教職員が専門性の向上に努め、優しさと活力ある学校を目指す。

○ 経営の重点

- ① 児童生徒の多様な実態に対応した教育課程を編成し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用して、一人一人のニーズに応じたきめ細かな教育を実践する。
- ② 毎日の健康管理と医療的ケアを的確に実施するとともに、希望が丘こども医療福祉センターや関係諸機関と密接に連携し、児童生徒の安全・安心を確保する。
- ③ 校内の各種研修会の実施、外部専門家やコア・ティーチャーとの連携、校外の研修会への積極的な参加等を通して、肢体不自由教育コア・スクールとしての教員の資質や専門性の向上を図る。
- ④ キャリア教育の推進を図り、家庭や地域、関係諸機関と密接に連携しながら、適切な進路支援を行う。
- ⑤ コア・スクールとして、県内の特別支援学校等への情報発信や外部相談活動を行うとともに、地域の施設、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等に対し、センター的機能を発揮した支援を実施する。
- ⑥ 居住地校交流・学校間交流等、交流及び共同学習を積極的に実施し、豊かな発達を促すとともに、特別支援教育や障がいのある児童生徒についての啓発と相互理解を推進する。
- ⑦ ぎふ清流福祉エリアの施設を積極的に活用することで、特色ある教育活動を目指す。
- ⑧ 自己評価や外部評価を学校経営に生かし、積極的な情報発信により開かれた学校づくりを推進するとともに、地域や保護者から信頼される学校を目指す。

○ 教育指導の重点

	重 点
学校経営	◎全教職員の専門性の向上と、優しさと活力ある学校づくり ・児童生徒の安全・安心に最大限の配慮をしながら、一人一人のニーズに応じたきめ細かな指導により、笑顔でたくましく生きる力を育む教育活動に全教職員で取り組む。
研 修	◎肢体不自由のコア・スクールとしての教職員の資質や専門性の向上 ・実践的な職員研修を計画・実施し、教職員の専門性及び実践力の向上を図る。 ・児童生徒一人一人の実態や障がいに応じた、根拠のある授業づくりを行うための職員研修を進める。
教科指導	◎小・中・高一貫性のある教育課程の編成と授業実践 ・授業実践（目標→実施→評価）を通して、教育課程や諸計画の検証を行い、小学部から高等部までの学習に一貫性をもち、指導の充実を図る。
道徳教育	◎明るく生き生きと生活しようとする意欲と温かい人間関係の育成 ・自分のよさを見付け、自己肯定感をもって明るく意欲的に生活する態度を育てる。 ・あらゆる機会や場を通して、心のふれあいを大切にし、互いのよさを認め合う温かい人間関係を育成する。
外国語活動 (小学部)	◎外国語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成 ・外国語を聞いたり話したりすることで、コミュニケーションを図る楽しさを体験し、日本と外国の言語や文化の違いを理解することで、コミュニケーション能力の素地を育成する。
総合的な 学習・探究の 時間の指導	◎主体的に問題解決する態度を育て、自己の生き方を考えることができる能力の育成 ・児童生徒の興味・関心に基づく課題を各教科等で身に付けた知識や技能を生かして、実践的、体験的に解決する学習活動を工夫する。
特別活動	◎児童生徒の自発性・自主性を生かした特別活動の推進 ・児童生徒主体による「児童集会」「部集会」及び希望フェスタ（学校祭）の運営を行う。 ・校内外の作品展等を通して児童生徒の情操を豊かにし、制作する意欲や感覚を高める。
自立活動	◎障がいによる学習上又は生活上の困難の克服と改善 ・「個別の指導計画」の作成を通して、障がいの状態や特性を的確に把握し、学びの連続性や長期目標を踏まえ、指導すべき課題や指導目標について職員間で共通理解を図りながら、根拠ある指導の実践に努める。 ・具体的な指導内容の設定に当たっては、発達段階、興味・関心、生活経験、長所や得意とすること等、多角的に情報を収集し、児童生徒が意欲的・主体的に取り組めるよう工夫する。
生徒指導	◎自分や周りの人を大切にしながら生活しようとする態度と温かい人間関係の形成 ・児童生徒一人一人の状態を的確に把握し、基本的な生活習慣、社会生活に必要なルールやマナー、意欲的に生活できる態度を身に付けることができるよう指導の充実を図る。 ・家庭や希望が丘こども医療福祉センター、スクールカウンセラー等との連携を深め、安全で安心な学校生活を送るための支援体制を確立する。
キャリア 教育	◎一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成 ・児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリアの発達段階に合わせた指導を行う。
健康教育	◎児童生徒の心身の健康の保持を目指した保健指導の推進 ・保護者や希望が丘こども医療福祉センター職員、医療機関等との連携を密にし、児童生徒の健康状態の把握及び健康管理、実態に即した保健指導並びに給食指導を推進する。 ・日常的に医療的ケアを必要とする児童生徒の充実した学校生活を目指し、保護者、希望が丘こども医療福祉センター職員、主治医、指導医等と連携し、身体の状態に応じた適切な医療的ケアを推進する。 ◎児童生徒が健康で安全に学習できる環境作りの推進 ・緊急時における校内外の連携・連絡・対応方法等を確認し、適切な対応ができるように、救急処置法及び医療的ケアにかかわる基本的な知識の習得を推進する。